

J A 帯広かわにし（有塚利宣組合長）は来年度、加工用ジャガイモの選別貯蔵施設の整備を計画している。

スナック菓子など加工向けの需要増を踏まえ、ジャガイモの作付面積が今後増えることに対応する。帯広市は新年度予算案に補助事業費を盛り込む。

ジャガイモ消費量は生食用は減少傾向にあるものの、加工用の中でもチップ向けは増加傾向となっている。菓子メーカーは国内でジャガイモ原料の供給が間に合わず、一定期間は輸入しなければならない状況。加工用ジャガイモの需要増に応じて同 J A が新施設を建設して対応する形となる。

同 J A 別府事業所（帯広市別府町）には、カルビーポテト帯広工場が隣接している。原料となるジャガイモを貯蔵するため7200トン分の貯蔵能力がある施設を増やす。

同 J A は昨年開かれた臨時総代会で、国の補助対象となった場合には総事業費約14億円で事業を進める計画。

市予算は、国の補助事業採択が決まった場合に備えるもので、施設建設費用の補助金として6億2073万円を計上する。

同 J A は「収穫量が増え、既存の施設では手狭になっている。今後も加工用ジャガイモの作付面積が増えるため、これに備えて施設整備したい」としている。

枝豆第2工場を建設 処理能力1.5倍に 事業費40億円今夏にも稼働 J A 中札内村

2016年2月15日



第2工場の建設予定地

【中札内】J A 中札内村（山本勝博組合長）は、枝豆（インゲン含む）の加工処理を行う第2工場を建設する。国内評価が高く大手量販店などからの需要が伸びており、新たな販

路確保に向けた生産拡大に対応する。今年度の強い農業づくり交付金事業（農畜産物輸出拡大施設整備事業）に採択された。早ければ3月末にも着工し、8月にも稼働を目指す。

既存施設では4個の加工ラインと5700トンの冷凍冷蔵庫があり、年間4099トン进行加工処理している。学校給食用として「むき枝豆」の引き合いなどが急増している

他、海外需要の開拓を進めており、加工用枝豆の需要増に応じて新施設を建設する。

第2工場は敷地面積6079.71平方メートルで鉄骨一部2階建て。第1工場の東側に建設する。液体窒素ではなく、電気式急速冷凍設備を備えた加工ライン1個と1500トンの冷凍冷蔵庫を排水処理施設を備える。同施設の建設で、年間1.5倍の6364トンの処理が可能になる。また、製品の箱詰めを一部ロボット化し、労働の負担も軽減するという。

総事業費は40億148万円。うち18億5254万円が国の補助を受けた。新年度は第2工場の建設に合わせて、枝豆の作付面積を170ヘクタール増の530ヘクタール（J A 帯広かわにし分含む）に増やす予定。山本組合長は「今後一層、安定的に供給することができる。生産者の意欲も高まることも期待したい」としている。

タマネギ加工施設完成 道外業者へ出荷計画 J A 帯広かわにし 2016年2月29日



完成したタマネギ選別貯蔵施設の選別ライン

J A 帯広かわにし（有塚利宣組合長）が建設していたタマネギ選別貯蔵施設が29日、完成した。加工・業務用の国産需要に対応しようと加工向けをメインに出荷する。

選別能力1日70トン

施設は一部2階建て、延べ床面積約5000平方メートル。選別能力は1日当たり70トン、タマネギをむく能力は1時間当たり6000個。道外の加工業者への出荷を計画している。建設費は約20億円。

今年産は39戸が89.3ヘクタールで作付け、施設の貯蔵

能力限度となる4465トンを生産する予定。今後の作付けもJ A グループや行政などが策定した作付指標面積に沿って行う。

昨年8月に着工し、完成した施設は29日に施工業者から引き渡された。試験的に来週操業し、本格的には今年産が収穫される9月からとなる。

同 J A は小麦、ビート、ジャガイモ、豆類の畑作4品にナガイモを加えた輪作が定着している。しかし、畑によってはナガイモ栽培が不適で、タマネギを新たな輪作体系に加えることを目指している。

タマネギは苗を育てて植え替える移植が一般的だが、省力化のため直播（ちよくはん）栽培を取り入れる。同 J A 青果部は「昨年産は天候にも恵まれ豊作だったので、今年も期待している。加工向けは事前に契約できるので収入の安定にもつながる」としている。